

我が国の国際競技力向上 のための活動拠点について

平成30年6月



中核拠点「ハイパフォーマンスセンター」

(東京都北区西が丘)

<ナショナルトレーニングセンター (NTC)>

トップアスリートが、隣接するJISSのスポーツ科学・医学・情報を取り入れた効果的なトレーニングを集中的・継続的に行う拠点施設。2008年1月に全面供用開始。

<屋内トレーニングセンター> <陸上トレーニング場>



- 競技専用トレーニング場
- 共用トレーニング場 等



- 400mトラック(6レーン)&フィールド*
- 傾斜走路、インラインスケート走路 等

<屋内テニスコート>



- ハードコート
- クレイコート

<アスリートヴィレッジ>



- 宿泊室
- 食堂
- 共同浴場 等

<国立スポーツ科学センター(JISS)>

トップレベル競技者に対して、スポーツ医・科学・情報の側面から総合的支援を実施する組織



スポーツ
医・科学
支援事業

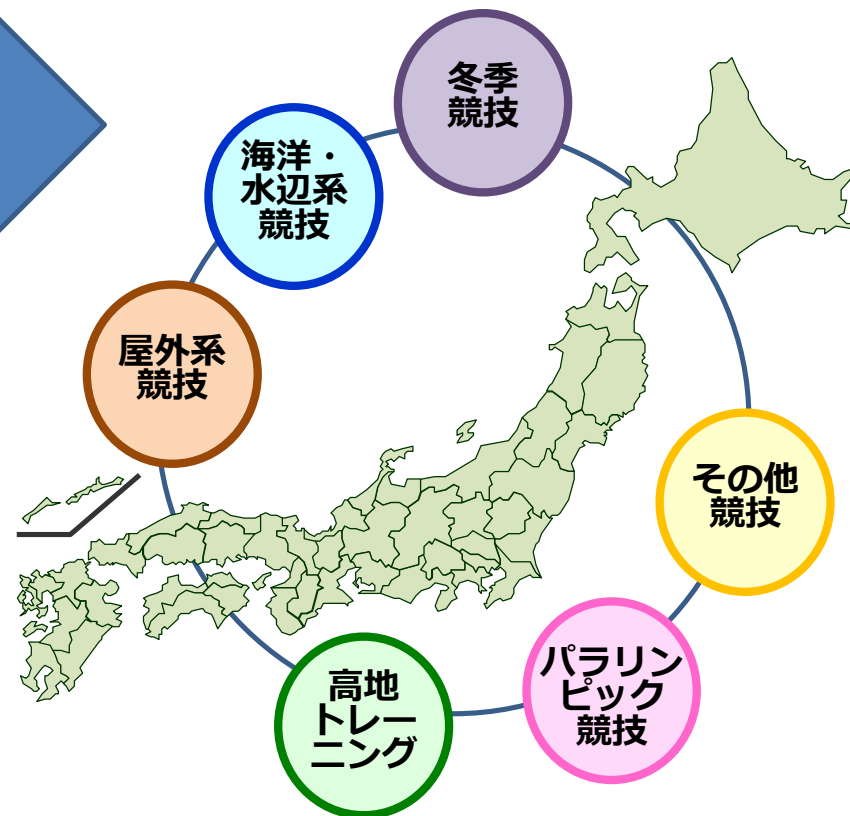
スポーツ
医・科学
研究事業

スポーツ
診療事業

連携
協力

<NTC競技別強化拠点>

- 中核拠点には整備が不可能な競技等については、既存のスポーツ施設を競技別のNTCに指定。
- 指定施設においては、トップアスリートがNTCとして利用できるよう、施設の優先利用や設備充実等の環境整備とともに、JISS及び近隣施設との連携・ネットワーク化による医・科学支援等を実施。



NTC競技別強化拠点指定施設一覧

オリンピック競技

冬季競技

-  ① スキー（ジャンプ）
札幌市ジャンプ競技場
（大倉山、宮の森）
-  ② バイアスロン
西岡バイアスロン競技場
-  ③ アイスホッケー
苫小牧白鳥アリーナ
-  ④ スピードスケート
帯広の森屋内
スピードスケート場
「明治北海道十勝オーバル」
-  ⑤ スキー
（ノルディック複合）
白馬ジャンプ競技場
白馬クロスカントリー
競技場
-  ⑥ ボブスレー・リュージュ
長野市ボブスレー・
リュージュパーク
「スパイラル」
-  ⑦ スピードスケート
長野市オリンピック
記念アリーナ
「エムウエーブ」
-  ⑧ ショートトラック
帝産アイススケート
トレーニングセンター
-  ⑨ カーリング
軽井沢風越公園
カーリングホール
「軽井沢アイスパーク」
-  ⑩ フィギュアスケート
中京大学アイスアリーナ
「オーロラリンク」

海洋・水辺系競技

-  ① セーリング
和歌山マリーナ
「ディンギーマリーナ」
-  ② ボート
戸田公園漕艇場及び
国立戸田艇庫
-  ③ カヌー（スラローム）
富山市
スポーツ・
カヌーセンター

屋外系競技

-  ① サッカー
堺市立サッカー
・ナショナル
トレーニングセンター
-  ② ホッケー
川崎重工
ホッケースタジアム
-  ③ 馬術
御殿場市馬術・
スポーツセンター

-  ④ ライフル射撃
埼玉県長瀬射撃場
-  ⑤ クレー射撃
神奈川県立
伊勢原射撃場
-  ⑥ 7人制ラグビー
熊谷スポーツ
文化公園
-  ⑦ ゴルフ
フェニックス・
シーガイア・
リゾート
-  ⑧ 近代五種
日本体育大学
（東京・世田谷キャンパス）
-  ⑨ ビッチャーボール
川崎マリエンビー
チバレーコート

（H30.4.1現在）
オリンピック競技 22 施設
パラリンピック競技 12 施設
オリパラ共同利用 4 施設
高地トレーニング 2 施設



高地トレーニング

-  ① 高地トレーニング
飛騨御嶽高原
高地トレーニング
エリア
-  ② 高地トレーニング
蔵王坊平アスリート
ヴィレッジ



オリパラ共同利用

-  ① カヌー（スプリント）
パラ・カヌー
木場潟カヌー競技場
-  ② 自転車競技
日本サイクル
スポーツセンター
-  ③ トライアスロン
フェニックス・
シーガイア・
リゾート
及び周辺エリア
-  ④ テコンドー
羽島市防災ステーション

パラリンピック競技

冬季競技

-  ① バイアスロン
田山射撃場
-  ② パラアイスホッケー
やまびこスケートの森
アイスアリーナ

屋外系競技

-  ① 陸上競技
田辺スポーツパーク
（南紀田辺スポーツ
センター）
-  ② 車いすテニス
庄内温泉筑濃ハイツ
-  ③ 5人制サッカー
Zozopark Honda
Football Area

屋内系競技

-  ① 車椅子バスケットボール
千葉ポートアリーナ
-  ② ビッチャー
大阪市舞洲障がい
者
スポーツセンター
-  ③ パワーリフティング
京都府立心身障害者
福祉センター体育館
-  ④ シッティングバレーボール
姫路市役所北別館
-  ⑤ ゴールボール
所沢市民体育館

【NTC競技別強化拠点の指定（スポーツ庁）】

- **指定対象競技は、JOC、JPCと協議して決定**
 - 国内拠点の必要性、拠点としての活動見込み等について検討
- **指定施設の選定は、公募・審査により行うことが原則**
 - 国際規格に準拠したトレーニング場
 - 医・科学、栄養サポート機能の構築のための近隣施設との連携の可能性 等
- **指定期間は、原則としてオリンピック・パラリンピック周期（4年）**
 - 国内拠点としての活動実績・見込み等について検証



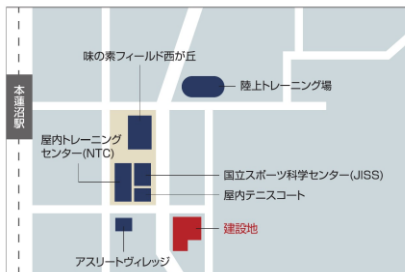
【NTC競技別強化拠点施設活用事業（指定施設の設置者等に委託）】

- **トップアスリートがNTC（指定施設）を利用するための環境整備**
 - NFが実施する強化活動への施設の優先・占有利用に最大限配慮（指定の条件）
 - トップアスリート（NFが指定する強化指定選手等）が施設を利用するに当たり、国際競技力の向上に必要なトレーニング機器等を整備する等、市民スポーツ施設では不十分な設備等を充実。
 - 中核拠点や近隣施設との連携によるスポーツ医・科学、情報サポートの実施
- **NTCとして機能するための施設運営者としての関係団体・機関との連携体制の構築**
 - NFが指定施設を優先利用するための利用調整、その他JOC、JPC、JISS、近隣連携機関との連絡調整
- **NTCの機能として、JISS及び近隣機関と連携して行う事業**
 - 長期滞在環境の整備（近隣施設との連携による宿泊環境の確保）
 - 医・科学、栄養サポート（近隣連携機関によるトレーナーの配置、アスリートデータシステムの活用等）
 - 計画的なトップレベル競技者の育成（次世代競技者の発掘・育成等）

ナショナルトレーニングセンターの拡充整備

施設概要

- 地上6階、地下1階、建物高さ約30m、延床面積 約3万㎡
- トレーニング場
(オリンピック競技・パラリンピック競技共同利用)
アーチェリー、水泳(競泳)、卓球、射撃、フェンシング、共用体育館4面(車椅子バスケットボール、シッティングバレー、ウェルチエアラグビー等)
- 宿泊施設(142名収容)
シングル、コネク(介護者室)、ツイン、和室
- 食堂 ● 研修室・会議室 ● 見学コース 等



完成イメージ図



建設工事概要

設計者：松田平田設計・教育施設研究所設計共同体
施工者：株式会社フジタ

完成時期：2019年6月末竣工予定

建設工事費：約200億円

ユニバーサルデザインについて

- バリアフリー法や東京都「福祉のまちづくり条例」に適合
- 「Tokyo2020アクセシビリティ・ガイドライン(ハード編)」(平成28年1月国際パラリンピック委員会承認)に準拠
- 動線経路
 - ・エレベータの出入口幅及び広さは競技用車椅子を基準
 - ・全てのトレーニング場及び宿泊室の扉には引き戸を採用
 - ・一部を除き、各階、諸室までの経路には段差のない計画
 - ・各階主要動線に手摺、交差点部・階段の手前に点字ブロックを設置
- 共用体育館前室
 - ・車椅子の乗換えや、車椅子の簡易メンテナンスが行うスペースを確保
- トイレ・宿泊室
 - ・各階に多目的トイレを設置、宿泊室に車椅子転回スペースを確保
 - ・一部居室は、介助者の同室・別室化を行うコネクティング扉を採用 等

- 我が国の国際競技力向上に向けて、スポーツ医・科学研究推進の中核機関としての役割を担うとともに、これらの研究成果を踏まえた、科学的トレーニングやスポーツ障害に対する医学サポート、スポーツに関する各種情報の収集・蓄積・提供などを一体的に行う施設。東京都北区西が丘地区に建設し、平成13年10月運用開始。
- JISSを所有・運営する(独)日本スポーツ振興センター(JSC)は、2016年4月から、オリンピック競技とパラリンピック競技の共同利用化を推進するため、JISSとNTCの機能を一体化した「ハイパフォーマンスセンター」を構築。

<施設構成>

① スポーツ科学研究施設

ハイパフォーマンス・ジム（低酸素トレーニング室、超低温リカバリー室を含む）、実験室（環境制御、生理学、生化学、心理学、体力科学、バイオメカニクス）、映像編集室、形態計測室、陸上競技実験場、ボート・カヌー実験場、風洞実験棟



体力科学実験室

② メディカルセンター施設

リハビリテーション室、診察室、臨床検査室、薬剤室、栄養相談室、カウンセリング室、放射線検査室



リハビリ
テーション室

③ トレーニング施設

水泳プール(競泳、アーティスティックスイミング)、新体操、トランポリン、フェンシング・車いすフェンシング、射撃練習場、アーチェリー実験・練習場、共用体育館



スポーツ情報
サービス室

④ サービス施設

スポーツ情報サービス室、食堂、宿泊室、研修室 等

NTC整備・充実のあゆみ

西暦(和暦)	強化拠点の整備・充実	オリンピック・パラリンピック日本選手団 獲得メダル数											
		開催都市	オリンピック				パラリンピック						
			金	銀	銅	計	金	銀	銅	計			
2001(H13)	10月 国立スポーツ科学センター(JISS)開所												
⋮													
2007(H19)	1月 NTC陸上トレーニング場供用開始 年度 競技別NTC活用(5施設)												
2008(H20)	1月 NTC中核拠点施設全面供用開始 年度 競技別NTC活用(5⇒13施設)	北京	9	7	9	25	5	14	8	27			
2009(H21)	年度 競技別NTC活用(13⇒21施設)												
2010(H22)	年度 競技別NTC活用(21⇒22施設)	バンクーバー	0	3	2	5	3	3	5	11			
2011(H23)	5月 NTCアスリートヴィレッジ南館増設 年度 競技別NTC活用(22⇒23施設)												
2012(H24)		ロンドン	7	14	17	38	5	5	6	16			
2013(H25)													
2014(H26)	年度 競技別NTC活用(23⇒26施設)	ソチ	1	4	3	8	3	1	2	6			
2015(H27)	年度 競技別NTC活用(26⇒33施設)												
2016(H28)	4月 中核拠点が「ハイパフォーマンスセンター」化 年度 競技別NTC活用(33⇒37施設)	リオデジャネイロ	12	8	21	41	0	10	14	24			
2017(H29)	8月 NTC拡充棟(仮称)建設工事本格化 年度 競技別NTC活用(37⇒38施設)												
2018(H30)	4月 競技別NTC活用(38⇒40施設)	平昌	4	5	4	13	3	4	3	10			